

## 九州城郭紀行ー15 (番外編・平戸散歩)

備長炭の話をもうひとくさり。「備長炭を使っています」という店頭の様子を今でも東京の蒲焼屋かなんかでみかける。こだわりの店かなんかの意味がこめられているようだ。普通の木炭のように一時的に高い火力が出て持続しないのとは違い、温度は低いながら持続する。このことの効用は、料理の達人道場六三郎さんでも聞かなければ小生にはわからない。なぜピンチョウ炭という奇妙な名称なのか。なんのことはない、物の本によると、元禄年間に紀伊田辺の商人備後屋長右衛門(略称・備長)が江戸へ売り出したからこの名ができたということになっているが、別に備長が創案したものではなく、土地に長く伝わっていた知恵を備長が商品化しただけのことらしい。むろん江戸には新宮の廻船問屋が扱うわけだが、そういう往來の頻繁さのために新宮は昔から江戸好みの土地といわれ、その方言も自然関東弁のにおいがあり、関西ではそういう点でも特異な町になっているようだ。備長炭のウチクが長くなってしまった。新宮には備長炭のために来たのではなかった。



鳥羽城址本丸からの鳥羽湾

さてと、話を少し戻そう。新宮には前日、伊勢の鳥羽からやってきた。名古屋からの紀勢本線沿線には、譜代大名が続いた伊勢亀山城(最近の地震で石垣が一部崩壊)、築城の第一人者であった藤堂高虎の津城、蒲生氏郷の松阪城、織田信長三男信雄が築城の伊勢田丸城などがあって既に見ていたが、鳥羽にはなかなか訪れる機会がなかった。鳥羽城は「海賊の城」(オット失礼)、「水軍の将」として織田信長・豊臣秀吉に仕えた九鬼嘉隆・守隆親子が居城し、[九鬼水軍]の本拠とした城である。この九鬼氏、尾鷲市をさらに南下すると九鬼と言う小さな漁港があるが、そこが海賊時代の本拠であった。小生の乗った「特急ワイドビュー南紀」はあっという間もなく通り過ぎてしまった。城址はほんの一部だが豪壮な織豊期城郭石垣が遺るものの、大きく改変され、小学校、市役所、幼稚園などの敷地になっている。関ヶ原の戦い以後は徳川幕府の政策により「丘にあげた、いや、あげられたカッパになった」。神戸市の北に三田市があるが、この地に移封され明治維新まで続く。九鬼氏の後の鳥羽には二万石程度の譜代大名が「ハンと茶碗」だけを持って次から次と交代して明治に至った。このような土地は独自の文化は育たないようである。「江戸期の大名とその地の文化」といったものを研究するのも面白そうである。

鳥羽城は「海賊の城」(オット失礼)、「水軍の将」として織田信長・豊臣秀吉に仕えた九鬼嘉隆・守隆親子が居城し、[九鬼水軍]の本拠とした城である。この九鬼氏、尾鷲市をさらに南下すると九鬼と言う小さな漁港があるが、そこが海賊時代の本拠であった。小生の乗った「特急ワイドビュー南紀」はあっという間もなく通り過ぎてしまった。城址はほんの一部だが豪壮な織豊期城郭石垣が遺るものの、大きく改変され、小学校、市役所、幼稚園などの敷地になっている。関ヶ原の戦い以後は徳川幕府の政策により「丘にあげた、いや、あげられたカッパになった」。神戸市の北に三田市があるが、この地に移封され明治維新まで続く。九鬼氏の後の鳥羽には二万石程度の譜代大名が「ハンと茶碗」だけを持って次から次と交代して明治に至った。このような土地は独自の文化は育たないようである。「江戸期の大名とその地の文化」といったものを研究するのも面白そうである。

鳥羽城は「海賊の城」(オット失礼)、「水軍の将」として織田信長・豊臣秀吉に仕えた九鬼嘉隆・守隆親子が居城し、[九鬼水軍]の本拠とした城である。この九鬼氏、尾鷲市をさらに南下すると九鬼と言う小さな漁港があるが、そこが海賊時代の本拠であった。小生の乗った「特急ワイドビュー南紀」はあっという間もなく通り過ぎてしまった。城址はほんの一部だが豪壮な織豊期城郭石垣が遺るものの、大きく改変され、小学校、市役所、幼稚園などの敷地になっている。関ヶ原の戦い以後は徳川幕府の政策により「丘にあげた、いや、あげられたカッパになった」。神戸市の北に三田市があるが、この地に移封され明治維新まで続く。九鬼氏の後の鳥羽には二万石程度の譜代大名が「ハンと茶碗」だけを持って次から次と交代して明治に至った。このような土地は独自の文化は育たないようである。「江戸期の大名とその地の文化」といったものを研究するのも面白そうである。

丘にあげられたカッパと言えば瀬戸内海の来島水軍(村

上氏)などはもっと悲惨で、豊後森(大分県日田市の東)という九州の山地で海賊から山賊にさせられてしまった。ただ明治以降は児童文学を開拓した久留島武彦を産みだした。

せっかく新宮城に来たのだから、少しは城の話をしなければなるまい。城は、新宮川(和歌山県では新宮川、三重県では熊野川と称す。左岸・右岸で呼称が違うのは余り無いのではないか)河口近くの断崖丘陵上に築かれ、本丸からは城下町が一望され、はるか太平洋をも望むことができる。元和四年(1618)和歌山城主浅野幸長が新宮の地を次男忠吉に分封。忠吉は、新宮川が大きく蛇行する要害の丹鶴山に築城工事を起こした。しかし翌年浅野氏は安芸広島へ移封されたため工事は中止された。翌元和五年、和歌山へ徳川頼宣が入封、その付家老水野重央に分封され工事を引き継ぎ、寛永十年(1633)に完成した。明治期の廃城後は本丸などはつい最近まで永く料亭として使われていたが、ケーブル跡があったり、そのアンカーに天守台が大きく改変されていて痛々しい姿を呈している。しかし全体としては遺構の保存状態は良いようだ。例によって本丸でコーヒーを飲みながら折り重なる熊野の山々を新宮川越しに眺めると、熊野はまさに隠国にふさわしく思えてくる。今日も新宮泊まり、ゆっくりのんびりしよう。



by 市村 銃治 本丸から熊野本宮の山々を望む



2007/07  
 (株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>  
 〒920-1166  
 石川県金沢市上若松町23番地  
 電話 076-233-7217  
 Fax 076-233-7375  
 Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)



2007/07  
 (株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

# 文 月



飛騨古川にて by shio

メタボリック体質の私は、3ヶ月ほど前からダイエットDVDを購入し、ダイエットをしています。運動以外に気をつけたのが食事。ダイエットメニューを研究しながら自炊をして、着実に体重とウエストを落としていました。

しかし、今の時期はカビがつきやすい時期ですよね？少しカビたパンを食べてお腹を壊した事はありませんか？実は、この6月に食中毒になってしまいました。原因は「牛乳」です。

その日は、スポーツドリンクの買い置きを切らしてしまい、料理用に購入した牛乳を開封し、コップに注いで飲みました。

「ごくっ…。苦い…。辛い…。」口に含んだのは、コシヨウがヨーグルト化したような物。すぐに吐きだしてコップを見ると、ドロドロした牛乳が…。恐る恐る牛乳パックの牛乳を手の平に注ぐと、ヨーグルト状態の牛乳が…。

その後、体が熱くなり、汗が止まらず、トイレと台所を何往復して、気づいた時には眠っていました。

次の日、仕事のため病院に行けず、気づいたら夜の10時頃。仕事の帰りに購入店に寄り、今回の牛乳の件を店長に説明をしたのだが、対応が悪かった…。

次の日、ヨーグルト化牛乳についてメーカーが謝りにきたのですが、当社には非が無いとの一点張り。パックを落とすと、牛乳は漏れなくても、細菌レベルで入ることができる穴が開くそう。別に落としてもないし、す

ぐにスーパーから持ち帰った牛乳だから、ありえない話。

一週間後、メーカーが報告書を持って説明に来ました。説明によると、細菌数ゼロの牛乳らしい。良品基準として、細菌が五万個までなら出荷しているそうです。しかし、報告書には、生菌数「33億個」と書かれていました。これには言葉を失いました。また、「牛乳では珍しいケースだけど、他の商品〇〇ではたまにありますよ。」とのこと。

お詫びとして、治療費3000円と、「Eロリ菌を退治するとも言われているヨーグルト？」の引換券を一枚渡して営業は帰った。

牛乳がヨーグルト化して大変な事になったのに、ヨーグルト引換券。またヨーグルトを食べるのか…。ギャグとしか言い様の無い対応に言葉を失いました。

今回、賞味期限内でも安心して飲めないのかと、痛烈に感じました。

また、寝込んでいたため、ウエストが少し戻った。今日もダイエットを頑張っています。

### 【プロフィール】

- 1976年生まれ 輪島市出身
- 6歳 NECのマイコンを触り始め、中学の頃にMacと出会う。
- 15歳 印刷所の下請け仕事を始める
- 19歳 デジタルと写真を融合した業務を実家の写真屋で始める
- 1999年 いしかわSOHOプラザ入居
- 2000年 新世紀インターネットコンテンツトライアル
- 優秀賞賞
- 2002年 ear Kanazawa いえい金沢 審査員特別賞受賞
- 2003年 石川新情報書府 輪島塗沈金制作



最

## 濱のしづみや 『原風景』

六月の末、山形県白鷹町から招聘いただいた。北陸道終点の中条ICからJR米坂線に沿って走る国道百十三号線を経て、片道七時間の道程。同行の高峰氏と交代での運転は大いに助かった。

今回の目的は、町の中でもさらに奥まった中山地区の地域再生。東北電力の社会貢献事業の一環である。

到着するやいの一帯にお訪ねしたのが、地区の古社・熊野権現社。高齢化が著しい典型的な中山間からやや山間地区ともいえるこの地区ではあるが、境内は綺麗に清掃されていた。

近年、日程が許す限り地域の古社を最初にお訪ねすることにしている。そこから歴史の古さ、地区住民の意識、連帯観など地区の隠された姿を垣間見ることができるところである。果たしてこの御社は、素晴らしい空間であった。

その後、夜は地域のご婦人たちに公民館にお集まり頂き、地域づくり談義。写真は会場に向かう際の日暮れる中山である。水が如何に豊かであるか、見て取れる。



翌日は早起きをして地域を巡った。写真奥の山は、白鷹山。千三百年ほど前、山頂に虚空蔵菩薩像が安置されたという。隣接して気象レーダーが建設されたが、町の何処から見てもこの遠望が仏像に見えるのは、実に何とも不思議であった。

我が愛する能登も日本の原風景が広がるが、ここ山形は英国女流旅行家イザベラ・バードが明治十一年に訪ね『東洋のアルカディア』と絶賛した地域。

中でも、この中山地区には、失われた日本の原風景が色濃く残っていた。超高齢化の数値を前に「限界集落」と自らを嘆く住民。本当の限界集落とは、連帯意識や祭礼行事を受け継ぐ意識のなくなった住民の町。高齢化率とは無縁の筈である。

瑞穂の国を今に伝えるこの地区が、内外の人々の憧れとなる日を迎えられるよう、残された数回の訪問に尽くしたいと願っている。



## 『 偏った役割モードで生きて行くと… 』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

最近大企業で不祥事が続いている。東京三菱UFJ銀行の投資信託の説明不足、明治安田生命、日本生命、損保ジャパンといった大手損保・生保の保険金未払い、コムスの補助金不正受給、NOVAの特定商取引法違反・・・。経営トップは記者会見で、現場の実態を知らなかったと弁明するケースが多い。実は僕は、いくつかのケースを除いて、経営者は本当に何も知らなかったのではないかと思っている。だからといって、経営トップに責任がないというわけではない。むしろ無自覚で不祥事を引き起こしてしまっている経営トップの方が、マズイと思っている。

すぐれた経営者は壮大な事業ビジョン持っている。この事業ビジョンに共感した人間が、この経営者の周りに集まってきて、同じビジョンを追い求め始める。こうして事業が立ち上がり、成長し始める。ホンダの本田宗一郎しかり、ソニーの井深大しかりである。こういった企業と、先に上げた不祥事を引き起こした企業との違いは何なのだろうか。経営者の器の違いと言ってしまうとそれまでなのだが、経営者も実のところ1人の人間。神様ではないはずだ。本田宗一郎も井深大もいろんな失敗を積み重ねていると思う。しかし、ある一線は絶対に越えなかった。これが信頼を生みだし、今日の組織を造り上げていくように思える。

自分のつくった組織の中で、本音を話し合える人間がいる。案外こういった小さな事が大事なのではないだろうか。人間には、生きて行くためにはいろんな役割を果たさなければならない。家族の中での父親としての役割。会社の中で経営者としての役割。社会の中での一構成員としての役割。役割は一つではないはず。ところがどれか一つの役割に偏ってしまうことも多い。偏った役割モードで生きていくと、どこかでバランスが崩れてしまう。崩れたバランスを補うためには、どこかで自分の思いを伝え、それを受け止めてもらい、できるなら新しい刺激の中で新たな考えに昇華させていきたい。

こういったことが日常的にできるのならば、致命的な一線を越える事はないだろう。むしろクリエイティブなものが生まれていくように思える。でも、こういったことがなかなかできない。公式な組織で大きな役割を担っている人ほどできない。これが現実かもしれない。経営トップの本音をうかがい知る事ができないから、側近と言われる人たちは、良かれと思った手を打つ。しかしこれがずれている。でも経営トップは知らない。かくしてずれた手が打ち続けられ、不祥事となって世の中を騒がせる結果となる。だれも悪いことをしようと思っていなかった。

てなことが、起きないようにするためには、身近な人間と本音で話し合える環境を作っておくことが大事だと思った次第である。とりわけ、家族においては特に・・・。

## 『温泉への誘い(50)ー渋谷の爆発事故ー』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

## 『 闘病の鍵 』

ナチュラルコンサルタント(株)

第1都市計画部 木内 誠

これまでの半生、大きな病を患うことのなかった小生にとって、闘病という言葉はあまりに無縁であった。至極当然のことだが、残りの半生そうはいかないようである。

先般、我が娘が「膀胱尿管逆流症」と診断された。約半月入院し、尿管バイパス手術を施した。まだ幼い体でよく頑張ったと思う。術後も良好で回復を祈るばかりだ。

娘の退院後、体調不良が続いていた小生も検査をうけるべく病院へ。結果、腎結石、胆石、胃粘膜下腫瘍、軽度肝機能障害、さらに無呼吸症候群の疑いがあると診断された。いずれも緊急に治療を要するものではないが、肥満・運動不足・ストレスによる典型的な生活習慣病とお墨付き。健康に対して無頓着だったツケがまわってきたわけだ。

かくして、食生活の改善と減量生活を始めることに。摂取カロリーは従来の半分を目標に、野菜中心の食事へ。帰宅後は約5kmのウォーキング。今までの不摂生が度をを超えていたのか、経過は比較的順調である。

病発覚をきっかけに、知人など意外に多くの身近な人が何らかの難病を患い、病を克服もしくは、病と共生している現実を知った。ネットでも白血病や癌患者のブログを見ることが出来る。同じ苦しみを持つ見ず知らずの他人に対して、病と闘う勇気を持ってもらおうと闘病生活を綴っている患者は多い。

日常生活どころか排泄物処理もままならない患者はこう記している。『闘病とは自らのプライドを切り崩すこと』。五体不満足の境地でなければ発せない重い言葉である。

斯様な重病患者に比べれば、小生の病など取るに足らない。だが、病を受け入れ、病と向き合おうとする意思は同じで、形は違えどひとつの闘病の姿なのだと感じた。

いまでできることは自らの甘えと闘い、節制することしかない。容易なようだが、いつでも逃げ出してしまう状況で、ややもすれば楽な方へ逃げてしまいそうになる。

その抑制となる鍵は、「家族を守りたい」という気持ちなのだ、あらためて気がついた。



【ダム湖の水が・・・】

先週の日曜日、毎年恒例となった五箇山の旧上平村(かみたいらむら)にある桂湖という湖へ、カヌー友達と日帰りツアーへ行った。朝9時頃、いつもの様にダムの入り口に到着したのだが、いきなり驚かされてしまった。例年なら満々と湛えているはずのダムの水位が10m程も低くなっているのだ。「なんだこの水の少なさは!?おとこの大雨で緊急放水でもしたのかな・・・」と友人に言う。「せっかくの美しい景観がこれじゃや台無しだな。」と友人は少しがっかりした様子でつぶやいた。湖の岸边にあるキャンプサイトに着き、ほかのカヌー友達とバーベキューの準備を始めたのだが、ここでもダム湖の水位の低さが話題になった。あるメンバーが「ぼくも緊急放水やと思って尋ねてみたけど、緊急放水は行っていないそうだよ。」と言うと、「それなら、こないだの大雨が降ってもやっとこの水位なんかい?」と別のメンバーが訝しげに言った。「去年も一昨年も今の時期は雪解け水でほとんど満水だったけど、今の時期でこんな水が少ないの初めて見たわ。」と別の女性メンバーも言った。私もこの会話を聞いていて、原因が今年の暖冬のせいだと次第にわかってきたのだが、わかってくるにつれて今度は目の前の異常さが次第に怖くなってきた。「このままだと夏の水不足は確実やな・・・」とか、「目の前でこんな見て、初めて異常気象を実感したわ。」とかメンバーからも驚きと不安の声が次々とあがった。

しかし人間の気が変わるのもまた早いもので、主目的のカヌーレスキュー講習会が始まると、この超低水位がメンバー達をいつのまにか喜ばせていた。いつもは水面下に隠れて使用不能な岸辺のなだらかなスロープが、この低水位でむき出しになっていたのだ。丁度カヌーの出廷場所として最高の状態になっている。私が持参したセーリングカヌー(帆掛け舟タイプのカヌー)も丁度いい発着場所が確保できたので、思うぞ存分友人とセーリングを満喫することができた。「災い転じて福ですな」とかわけのわからないことを友人とつぶやいていました。



水状態の桂湖とセーリングカヌー

第五十五章

含徳之厚。比於赤子。蜂・蛇不螫。猛獸不據。攫鳥不搏。骨弱筋柔而握固。未知牝牡之合而全作。精之至也。終日號而不嘎。和之至也。知和日常。知常日明。益生日祥。心使氣日強。物壯則老。謂之不道。不道早已。

パーフェクトTVで「博士の愛した数式」を観ました。

$e^{(i \cdot \pi)} + 1 = 0$   
 $e = 2.71828 \quad 18284 \quad 59045 \quad 23536 \quad 02874$   
 $71352$  ( $\ln x = 1$  となる正の実数  $x$  を  $e$  と定義)、 $i$ は虚数、 $\pi$ は円周率です。

$E^{(i \cdot \pi)} - 1 = 0$  であれば、 $(i \cdot \pi) = 0$ なのですが、そうでないところが虚数のなせる業なのでしょう。私は「虚数」というのは、質量が我々が住んでいる宇宙と真逆、質量がマイナスの世界での実数であると考えます。質量マイナスの世界では「虚数」は「実数」なのです。

さて、映画では「i」(愛)が間にあればエレガントに収まるというような雰囲気のことを言っていたように記憶しています。

老子は「内に豊かさを秘めたる人は、幼子のように見える」「強いて心を奮い立たせようとするのは、無理強いというものだ」と言っています。

生産者と消費者、行政と市民の間に立ち、難しい局面も、「虚数」という得たいの知れないブラックボックスを持ち合わせていれば、収まる所にちゃんと収まるのであり、どちらかの考えを無理強いすれば、その場はやり過ごせても、いつかは問題が再浮上してくるということかもしれません。

「子は鏝」などの名言も「子どもは虚数」、先月号で言葉足らずだった「地域猫」も「猫は虚数」であるということ。

「子」も「猫」も両者・地域住民を和解させよう、コミュ

ニティを活発化させようとする意志が全くないのですが、その存在自体が両者・地域住民を和ませ、接着剤となるわけです。触媒効果と言うこともできるかもしれませんが。

最近の細木和子の番組で二者の間に全く別の存在を加えると、二者の関係性が強くなる「客ナントカ」という言葉があると書いていました。「客ナントカ」の「ナントカ」を知っている方がおられましたら教えてください。

これなども「虚数」でしょう。また、白山比ヒメ神社の神は「菊理姫(くくりひめ)」ですが、イザナギ、イザナミの争い事を調停した神で、まさに「虚数」にふさわしい話かもしれません。

プランナーも「虚数を自由に扱える」ようになれば、もう怖い者知らずでしょうし、人生の鉄人と呼ばれるにふさわしい人格者となるでしょう。この「虚数」がなかなか活用できないのは、当事者になってしまうと見えて



こないということです。当事者にならなければ、何が問題なのかはわからないし、当事者になってしまったのでは、解決策が見えてこないのです。

固定概念をはずし、幼子のような柔軟な意識で、パードアイ的な思考をすると、もしかしたら「虚数」を手に入れることができるかも・・・。

by shio